



正人会 会報

平成24年春 第4号

発行者：和歌山市議会 絆クラブ

編集：和歌山市議会議員 戸田正人

連絡先：〒640-8156 和歌山市七番丁23 和歌山市議会絆クラブ
073-435-1115

～金正恩新体制の北朝鮮について～

1月31日、東京にて櫻井よしこ氏が理事長を務める国基研主催の「どうすべきか金正恩の北朝鮮」をテーマにした研究会に参加してまいりました。



ずばり、正恩体制になった北朝鮮が今後どのような動きをするのか、それは極東アジアにとっては見えない体制での脅威であり、我が国においては拉致問題を完全解決できるか否かのターニングポイントではなかろうかと思うところであります。

金日成、金正日、金正恩と親子三世代にわたる独裁者支配が続く北朝鮮において、神格化によるでっち上げの忠誠心で国民を誘導しており、支配当時は現在のような食糧難もさほどなく、安定して供給が続けられていた事から、命令、服従の関係が生まれ、縦の権力統制がとれていたにすぎなかったのです。

しかし正恩新体制になった北朝鮮国内ではガタガタに揺れ始めているのです。

縦社会を大切にする朝鮮民族において、新体制の指導者である正恩という20代の若造に「父上」「将軍様」などの敬う精神が芽生えず、党本部においても信頼感がまったく生まれてこない。また、若造のために戦うなどという姿勢が微塵も感じず、新体制になった現在は士気も上がってこないというものでした。

もはや、北朝鮮の若造政権には理念や権力などもなく、加えて金やモノもない国になっており、拉致問題を抱えている我が国においてはこの弱小若造体制の犯罪国家北朝鮮を解体する、願ってもないチャンスであるのです。



しかし、崩壊寸前の北朝鮮をそのまま放置しておく、時代遅れの東アジア帝国主義国を目指す中国の支配下になることが「大」なのです！

韓国にとっては自由統一に向けての機会であり、日本にとっては拉致問題解決の機会であり、ここぞとばかり民主主義国家である日本と韓国が歩調を合わせて、北朝鮮解体に向けて本腰を入れられるのかがポイントとなるのです。

しかし、その肝心の韓国が…最近どうもおかしい…

これは西岡勉先生のお話ですが、韓国では左翼政権が国を動かしているというのです。昨年誕生した朴元淳ソウル市長も弁護士兼社会運動家であり、韓国国内の教育でも、メディアにおいても左翼主義の影響がかなり強く、今年4月の国政選挙、12月の大統領選挙がおこなわれますが、社会主義、左翼主義思想指導者が有利であると噂されているのです。(韓国における左翼主義とは北朝鮮指導者達と協調路線を目指すというものです)

韓国の自由統一の理念が左翼勢力の強い今の政府において、むしろ北朝鮮をサポートするような動きが生じていないか思慮するところです。

なぜそのような考えが国民のなかで波及してきたのかと考えると、それは朝鮮民族というアイデンティティーに基づく理念などではなく、失業率も高く経済困難となっている韓国国内において、北朝鮮との統一がこの状況を打破するきっかけになるかもしれない、未開拓の北という地域で高度成長がもしかすると可能なのかもしれないという、経済成長理念からの観測に基づいて世論形成している気がします。

ドイツの例がそうですが、1990年の東ドイツ、西ドイツの再統一に現在のドイツが形成され、世界の先進7ヶ国になるなどEU圏内ではフランスなどと並ぶ経済大国になったかのような飛躍を描いているのです。その考えが過去の南北統一による治安低下や経済負担などの価値観を上回っているというものです。

これは台湾にも見られる光景で、台湾民族のアイデンティティーにおける独立国家世論より、中国との経済協調路線の価値観のほうが必要であるとの答えが、先に行われた台湾総統選の選挙結果であったのかもしれませんが。

いずれにしても、日本が目指す東アジア諸国の民主主義における自由解放の方向性ではなく、中国や北朝鮮の共産国家に監禁され、自由、人権を奪われ続けている、間違った方向に助長しない事を願うばかりです。

北朝鮮では2000万人の尊い人権の自由が奪われ、中国におけるモンゴル、ウイグル、チベットの完全独立を認めない弾圧を行っている現状は東アジア諸国、いや世界の大問題であり、我が国にとっての拉致問題とも深く関連してくるのです。

日本はこのような事態を、指をくわえて見ているだけでいいのでしょうか！？

韓国の今後の態度や姿勢は、ある意味、日本、中国の対局な面からも、東アジア諸国における大きなターニングポイントであり、正念場であるのではないかと考えるのです

さて、北朝鮮の話に戻りますが、先日の金正日の葬儀での参列順が北朝鮮の権力序列ではないという事、すなわち表に出てくる人物と、実際に権力を持っている人物とが異なるという事のようにです。

それは金日成、金正日のように、たった一人で決定を下せる人物がいなくなったという事であり、それは今までの北朝鮮が行ってきた、集团的指導体制を内部分裂できるチャンスであるのです！

いずれにせよ日本はもう一度、アジアの騎手になるべきであり、自分たちで守り続けてきた自由・人権・民主主義という価値観に誇りを持って、アジア諸国のリーダーとして自覚すべきなのです。



我が国の最優先課題である「拉致問題」を早期解決し、激動の世界情勢の中で国家としての毅然たる意志、そして国民としての意志を示したいものです。

私は地方議員ではあり、北朝鮮問題など国家外交に対する事への意見はおこがましいとは思いますが、このような問題を政府任せにすることなく、地方からも市民に訴えかけ問題意識を共有し、日本の新たな土台作り(改憲)の気運を高めていくことが必要と考えております。



和歌山市議会議員 戸田正人のブログへリンクします

和歌山市議会議員 戸田正人

検索